

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム きらら

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	岩手県岩手郡岩手町大字子抱8-110-7		
自己評価作成日	平成29年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成30年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?act=i.on.kouhyou_detai_i.2017.022.kani=true&Ji.gvosyoCd=0372100974-00&P.refCd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 9 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、周囲が田園や姫神山などが一望出来て、一年を通して四季の移り変わりが感じられる、昔から変わらない田舎の風景が残っている所です。理念にも掲げている様に職員と入居者が共に暮らし、職員が壁を作らない関係を心掛け、常に入居者の方々が自分らしく生活出来るよう、1人ひとりの不安やニーズを把握し決め細やかに対応する事で穏やかに過ごして頂けるように努めています。農繁期時期には野菜作りや花植え、草取りが出来る場所もあります。また、母体が医療法人であることもあり、定期的な訪問診療と訪問看護など医療支援があり、健康管理が充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな田園地帯に位置し、季節の移り変わりを直に感じることが出来る良好な立地条件に恵まれた場所にある。
職員は、理念に基づいて、「利用者との壁をつくらず管理せず、自分らしく生き生きとした生活を送ること」を念頭に、家庭の延長を意識した丁寧な支援に努めている。職員間の雰囲気もよく、良好なチームワークにより適切な支援が展開されている。
管理者を中心に、職員はより以上の適切なサービスを提供するために、内部研修と避難訓練について、年間の実施計画を作成し、毎月実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム きらら

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に、見える場所に掲示して意識している。また、普段から理念に基づき、共に生活し壁を作らない関係を心掛けて取り組んでいる。	理念は、玄関近くの廊下に掲示し、事業所のパンフレットにも掲載されている。春先に実施する倫理研修の際に、理念について職員間で話し合い理解を深めている。職員は、利用者と同じ視線で話しかけプライドを傷つけない言葉がけをすることし、管理者は、不適切な行為にはミーティングでアドバイスをするなどして、常に理念を意識したサービスを提供するよう心がけている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の振興会にも加入し、行事などの実行にも加わり、地域の一員として交流している。	事業所として地元の自治振興会に加入し、総会に参加したり、回覧板で地域の情報を得ている。地域行事である「花いっぱい運動や体育祭・文化祭」に作品展示する等、地元の一員として参加している。地元小学校の運動会には、敬老席が用意され利用者は見学に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常時、地域の方や訪問者へ対しての相談には対応している。また、職場体験の場として、地域の中学生の受け入れを、行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて地域での活動などの情報を伺い、が医療支援のサービス向上に活かしている。また、他職員へも情報共有を図っている。	運営推進会議は、隔月に開催されている。虐待、水害、クマの出没に関することが話題となっている。水害の際の避難場所についても検討され、具体的な内容の情報交換が行われた。地区の消防団長や婦人部の協力隊、町の保健師から講話をしていただくなどのゲスト参加は、最近では、できていない現状である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席して頂き、福祉情報の交換など、協力関係を築いている。	運営推進会議には、岩手町地域包括支援センターの室長が参加しており、待機者状況や見学希望者などの情報提供を得たり、協力関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠も日中は行わず、出入り自由であり身体拘束しないケアに努めている。また、研修会にて具体的な行為についても、理解している。	職員持ち回りで講師を務める内部研修を計画的に行い、言葉による拘束、薬による拘束等、身体拘束の具体的な行為について理解を深め、身体拘束をしないケアに努めている。玄関やウッドデッキは、日中は施錠していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の為、職員間でのコミュニケーションを図り、何でも隠すことなく言える職場環境作りをしながら努めている。また、研修会にて具体的内容も把握している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを参考に、職員全員で制度について把握している。利用者の状況に合わせて、紹介や促しを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度説明を行い、改定時においても十分な説明に努め、理解・納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の利用者家族アンケートを実施し、満足度及び意見を、伺う機会を実施している。その結果を経営者及び運営推進会議委員へも報告し、反映させている。	事業所内に意見箱を設置している他、年一回、家族アンケートを実施している。家族アンケートの中で、薬の処方内容を知りたいとの要望があり、家族にお知らせするようにした。写真を多く取り入れた事業所広報誌「きらら通信」を発行し、家族に、食事メニュー・所内の出来事などを知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、部署ミーティングを行っており、その内容を同じく毎月の運営会議にて提案、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段の勤務状況や管理者の報告などを踏まえて、向上心を持って働いていただけるように、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成して、法人、グループホーム協会、施設、自治体の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会などに参加し、相互に交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を基に、本人との会話や日常生活に寄り添い、不安の無い日常生活が送れるように、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いや困り事、不安など、常時受け付けることを伝え、時間を掛けて確認するようにして、受容・傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族より、良くお話を聞きとり適切に対応できるように、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、共に暮らす同士の関係を、心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方との情報共有をしながら、共に本人を支えていく関係を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	自宅を見たり、近所の友人が面会に来たり、個々を尊重し、関係が途切れないうに努めている。	利用者が希望する「お墓参りや故郷を訪ねるドライブ」を行い、家族との関係を支援している。利用者の友人や兄弟が訪ねてきた際には、職員がお茶を出し、居室で過ごしている。行きつけの理容室や近くの図書館に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が状況に合わせて間に入り、橋渡しをしながら孤立させずに関わり合い、支え合う支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの本人、家族との信頼関係を大切にし、外出先で会っても気軽に挨拶を交わし、相談が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、希望や意見の把握に努め、カンファレンスなどで検討している。	職員は、利用者との日常の会話や気づきを朝晩のミーティングで報告し、連絡ノートに記載して全員で共有している。利用者の思いや希望については、カンファレンスなどで検討し、実現に向けた取り組みをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りを行った情報をまとめ、職員間で共有しながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報交換、共有を図り、心身の状態や有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望などを聞き取りながら、定期的にモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成するように努めている。	職員2名で利用者3名を担当している。担当者会議で介護計画を評価し、意見やアイデアをケアマネージャーがまとめ、介護計画を作成している。電話や面会を通して、家族の意見や希望を聞き取りしている。医療面については、訪問診療した医師や訪問した看護師に意見を聞くなどしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや個別記録の情報を密にし、情報の共有を図り、実践に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援をする為に、随時生まれるニーズの把握に努め、ミーティングを行ったり、関係機関へ相談、検討出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりの希望・要望を把握しながら、スーパーへの買い物や図書館など、楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の医師が、かかりつけ医となっている為、事業所との関係を築き、適切な医療が受けられている。	利用者・家族と入所時に話し合い、週2回訪問診療していただいている協力医がかかりつけ医となっている。また、訪問診療の医師や訪問した看護師から、利用者の健康状態の相談や助言を得ている。診察等の結果は、毎月のお知らせで家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の際に相談、助言を頂き、適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に情報提供を行い、安心して治療が受けられるように対応している。また、その後も担当看護師などと連絡を取りながら、早期退院へ支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し、健康状態・家族の意思を含め、柔軟な対応が可能となるよう協議できる態勢にある。	今まで看取り実績はないが、事業所が作成している「看取り指針」により、入居時に、利用者・家族に説明している。利用者が重度化した場合、本人や家族の希望を把握し、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料により学習している。加えて避難訓練の時などに、消防署より実技指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施し、全職員が行動概要を把握出来るよう努めている。又、年2回の総合避難訓練の時は、消防職員・消防団・近隣の方々に参加して頂き、協力体制を築いている。	災害時の対応マニュアルを作成し、年間計画に基づき毎月、避難訓練を実施している。水害や地震等の災害についても、訓練に取り入れていきたいとしている。自治会長と話し合いの上、地域の方々に個別に協力を依頼している。年2回の総合避難訓練には、消防職員、消防団、近隣の方々が参加している。日用品などの備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬すべき年長者である事を、念頭に置き敬意を忘れない対応を心掛けている。また、排泄や入浴介助の際にも、最小限の介助にてプライバシーを損ねないように心掛けている。	できることは自分でをモットーに、利用者個々の状態に合わせた介助を心がけ自立を支援している。女性の下着の干し方、たたみ作業時の男性のかかわり方等、利用者の尊厳を傷つけないように配慮している。職員は、グループホーム協会主催によるプライバシーに関する研修に参加する等、人権尊重の周知に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望を汲み取れるように、言葉だけでなく表情や仕草などにも留意し、対応するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員からの押し付けにならないように、心掛けながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて馴染みの理容室へ行ったり、買い物に出かけられるように、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日、行事のときは希望食を作ったり、調理・盛り付け・片付けを一緒に行っている。又、日常的にも希望を聞きながら、柔軟に対応出来るように努めている。	職員は、利用者と献立を考え、事業所の畑の野菜や利用者と一緒に買い物した食材で調理している。職員は、お弁当持参であるが、利用者と一緒に食卓を囲み、ゆったりとした雰囲気の中で食事をしている。利用者の誕生日には、本人の希望を献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの体の状態や嗜好を把握し、対応している。又、定期的に栄養士の栄養チェックを受けてアドバイスを頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助を行い対応している。又、週2回洗浄剤を使用し、消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体レベルに合わせ、誘導や介助、見守りを行っている。基本的にトイレでの排泄を目標に、自立の支援をしている。	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。パット利用者についても、様子を見ながらトイレ誘導し、利用者全員がトイレでの排泄ができています。トイレは、2部屋に一か所計5か所配置されており、部屋を出ると近くにトイレがあり便利です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動、食物繊維、乳製品などの摂取などに配慮しながら、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	基本的に週2回の入浴日を設定しているが、希望があれば、何時でも入れるように配慮している。希望により入浴剤を使用したりして、楽しめるように支援している。	入浴は、週2回、利用者の希望を聞いてペースに合わせた入浴介助を行っている。利用者は、入浴すること自体が楽しみと、期待して待っている。男性職員による介助もあるが、女性利用者の気持ちを配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人を尊重し、休憩をしたり、安心して良く眠れるように支援している。閉じこもりには、注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医からの情報や薬局からの情報を確認し、職員間での情報共有を図り、理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、調理、洗濯物たたみなど、個々に合わせた活動を、ある程度任せ、役割を持ち張り合いのある生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど、希望に沿って外出している。また、普段行けない場所でも、家族などの協力を得て対応している。	普段は、事業所の庭先に出て、花壇の枯れた花を摘んだり、ベンチで寛いでいる。近隣のリンゴ狩り、田圃アートの見学、家族同伴の外出等でも出かけている。秋の紅葉など季節を感じるドライブも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や買い物、行事での外出の際など、お金を所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知り合いからの電話を取り次いだり、希望に応じて電話をしたり、やり取り出来るように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ飾り付けなどを工夫したり、一緒に作品などを作ったりしながら、愛着を持ち、居心地良く過ごせるように工夫している。	ホールや廊下の壁に職員と一緒に作成した折り紙の作品を飾り付けている。ホールは採光に優れ、エアコン、パネルヒーターにより快適な環境を提供している。小上がりの畳のスペースや日当たりの良いウッドデッキも寛げる居心地の良い場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ観覧時は、ゆったりソファに座ったり、テラス、庭、畳の小上がり(2箇所)など、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には私物や使い慣れた物など、自由に持ち込める為、本人や家族と相談しながら、レイアウトが出来るように工夫しています。	居室は、タンスとベッド、洗面台が備え付けである。寝具はレンタルで週一回リネン交換をしている。居室は、ハンガーラック、家族写真などを持ち込んでいる。事業所は、利用者に居室に自由に持ち込みできることを伝えているが、思いのほか少なく、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレには、解り易い位置にプレートを設置している。トイレは、各居室のすぐ隣にあり、使い勝手も良く、前面バリアフリーで躓かない様に、工夫をしている。		